

略歴書

三輪 滋 (みわ しげる)

飛島建設株式会社 執行役員 (技術担当), 博士 (工学),
技術士(総合技術監理部門, 建設部門)「土質及び基礎」



【専攻分野】 地盤地震工学

【本会活動】

- ・ 理事 (調査研究・災害担当) (2007/6-2010/5)
- ・ 研究統括委員会 : (2007/6-2010/5)
- ・ 地震災害対応委員会委員 : (2007/6-2010/5)
- ・ 地震被害・復興の記録のアーカイブス構築のための研究委員会 : (2008/6-2011/5)
- ・ インドネシア・スマトラ沖地震復旧支援チーム : (2009)
- ・ 第13回日本地震工学シンポジウム運営委員会委員 (2009-2010)
- ・ 役員候補推薦委員会(2014/6-2017/5)
- ・ 17WCEE 運営委員会委員(2017/11-)

【略歴】

1981年3月 京都大学工学部交通土木工学科卒業
1981年4月 飛島建設株式会社入社 入社して36年7ヶ月
1992年4月 飛島建設(株)技術研究所 地盤耐震研究室
1998年10月 飛島建設(株)技術研究所 地盤耐震研究室室長
2003年4月 飛島建設(株)技術研究所 防災研究室長
2004年3月 京都大学大学院社会人博士課程修了 博士(工学)
2004年4月 飛島建設(株)技術研究所 副所長兼防災研究室長
2006年4月 飛島建設(株)技術研究所長
2012年5月 飛島建設(株)執行役員技術研究所長
2015年4月 飛島建設(株)執行役員(技術担当)現在に至る

【受賞】

土木学会 地震工学論文集 Vol.27 論文賞 (2003年)
地盤工学会 事業企画賞(2005年)

【委員会活動 (直近5年間)】

(公社) 土木学会 地震工学委員会 委員 (2002-)
(公社) 土木学会地震工学委員会耐震基準小委員会委員(1999-)
(特非) 光ファイバセンシング振興協会 理事(2011-), 副理事長(2015-)
(一社) 日本プロジェクト産業協議会 森林再生事業化委員会 委員(2009-)

【著書および主要論文 (代表的なもの10編以内)】

- ・ 三輪滋, 池田隆明, 綾部孝之, 沼田淳紀: 2000年鳥取県西部地震における境港市の地盤の地震時挙動, 土木学会構造工学論文集, Vol.48A, pp.445-455, 2002.3.
- ・ 三輪滋, 小堤治, 池田隆明, 岡由剛, 井合進: 初期応力状態を考慮したモデルを用いた有効応力解析による鋼矢板岸壁の地震被害の評価, 土木学会構造工学論文集, Vol.49A, pp.369-380, 2003.3.
- ・ 三輪滋, 池田隆明: 液状化が生じた地盤のせん断剛性, ひずみレベルの評価と基礎構造の応答評価への適用, 土木学会地震工学論文集, Vol.27, 論文№274, 2003.11.
- ・ 三輪滋, 池田隆明, 大岡弘: 1995年兵庫県南部地震で液状化した埋立て地盤に建つ鋼管

杭基礎構造物の被害原因と被害過程の検討, 日本地震工学会論文集, 第4巻, 第1号, pp.5-22, 2004.2.

- Shigeru Miwa, Takaaki Ikeda and Tadanobu Sato: Damage Process of Pile Foundation in Liquefied Ground During Strong Ground Motion, Soil Dynamics and Earthquake Engineering, Vol.26, 2-4, pp.325-336, 2006.3.
- Shigeru Miwa and Takaaki Ikeda: Shear Modulus and Strain of Liquefied Ground and Their Application to Evaluation of the Response of Foundation Structures, Structural Eng./Earthquake Eng./JSCE, Vol. 23, №1, pp.167-179, 2006.4.
- 三輪滋, アイダン・オメル, 鈴木崇伸, 遠藤一郎, 鈴木智治, 砂田尚彦, 清野純史: インドネシアにおける地震防災のための強震観測・地盤調査技術の普及支援活動と課題, 土木学会論文集 A1 (構造・地震工学), Vol.65, pp.748-756, 2009.
- 三輪滋, 古川愛子, 清野純史: 接着剤を用いた墓石の耐震補強における接着強度の経年劣化に関する基礎的研究, 土木学会論文集 A1 (構造・地震工学), Vol.66, pp.328-341, 2010.
- 三輪滋, 筒井雅行, 本山寛, 池田隆明, 沼田淳紀: 2011年東北地方太平洋沖地震における関東地方の液状化調査, 土木学会論文集 A1(構造・地震工学), Vol.68, №4, pp.I_1250-1265, 2012.
- 三輪滋, 吉田雅穂, 村田拓海, 沼田淳紀: 丸太打設による既設戸建て住宅の液状化対策の小型振動実験および数値解析による検討, 土木学会論文集 A1(構造・地震工学), Vol.72, No.4, pp.I_117-128, 2016.

【所信】

これまでに、大きな被害をもたらしたいくつもの地震を教訓に地震工学が発展し、災害軽減に必要な技術は飛躍的に向上してきたと考えられます。しかし、先の2011年東北地方太平洋沖地震やそれ以降も、各地で地震とそれに伴う被害が生じています。2018年6月18日の大阪府北部の地震でも、都市の脆弱性が示されました。多くの地震被害を通じて地震工学が発展してきたにもかかわらず、人々の住まいや地域の防災性の向上は並大抵のことでは進まないと感じさせられます。南海トラフの地震、首都圏直下の地震などが近い将来に発生することを考えれば、また、国際的な災害軽減への貢献の必要性を考えれば、今一層、地震災害軽減への努力が必要です。そのような様々な分野を横断して活動する日本地震工学会の役割はますます重要となると思います。

私個人は、これまで、日本地震工学会をはじめ、地盤工学会、土木学会、日本建築学会、自然災害学会などの学会や様々な民間団体において、多くの方々と活動を共にし、ご指導いただいたことで、それなりに広い視野を持つことができたのではないかと思います。また、日本地震工学会では理事も経験させていただき、運営の一部にかかわらせていただいた経験も一助となるかと思います。このような活動の経験を活かし、また、そこでご指導いただいた多くの皆様のお知恵を拝借しつつ、日本地震工学会の運営に貢献できればと思います。

監事として選出されましたら、日本地震工学会の健全で透明性の高い運営と社会に貢献する活動のために貢献させていただきたいと存じます。さらに、日本地震工学会の活動を通じて、日本や国際社会の持続可能な発展のため貢献させていただきたいと存じます。

以上